



CHAPTER 4

Cisco VXC ファームウェアおよびコンフィギュレーションのアップグレード手順

この章では、Cisco VXC 6215 クライアント（SUSE Linux ファームウェアを実行）、Cisco VXC 2211/2211 PCoIP クライアント（ThreadX ファームウェアを実行）、Cisco VXC 2112/2212 ICA クライアント（WTOS ファームウェアを実行）でファームウェアのイメージおよびコンフィギュレーションを、Package Manager を使用してアップグレードするために必要な手順について説明します。

説明する内容は、次のとおりです。

- 「Cisco VXC 6215 のアップグレード手順」(P.4-1)
- 「Cisco VXC 6215 アドオン パッケージのパッケージングと展開」(P.4-3)
- 「Cisco VXC 2111/2211 PCoIP クライアントのアップグレード手順」(P.4-12)
- 「Cisco VXC 2112/2212 ICA クライアントのアップグレード手順」(P.4-22)
- 「リモート リポジトリを使用したクライアントのアップグレード」(P.4-24)
- 「Cisco VXC Manager パッケージ構造について」(P.4-24)
- 「スクリプト ファイル構造の概要」(P.4-25)

Cisco VXC 6215 のアップグレード手順

Cisco VXC Manager では、Cisco VXC 2112/2212 ICA プロトコルのクライアントの管理に必要な手順と同様の手順を使用して Cisco VXC 6215 クライアントを管理できます。

管理アーキテクチャ

次の項では、Cisco VXC 6215 の管理に関連する機能の概要を簡潔に説明します。Cisco VXC 6215 の詳細については、『*Cisco Virtualization Experience Client 6215 Administration Guide*』を参照してください。

オペレーティング システム : SUSE Linux の Cisco 拡張版

Cisco VXC 6215 クライアントは、インターネット ブラウザ、仮想クライアント、リモート デスクトップ プロトコル、および Unified Communications などの生産性を高めるソフトウェアを実行するよう最適化された、Cisco 拡張版の SUSE Linux を実行しています。

Cisco VXC Manager Agent : SUSE Linux 用 HAgent

HAgent と呼ばれる Cisco VXC Manager Agent は、Cisco VXC Manager との管理メッセージの通信のために Cisco VXC 6215 にインストールされます。

クライアントのコンフィギュレーション用 INI ファイル

Cisco VXC 6215 はデバイスのコンフィギュレーションのために INI ファイルを使用します。詳細については、『*Cisco Virtualization Experience Client 6215 INI Files Reference Guide*』を参照してください。INI 設定は、起動時またはユーザがデバイスからログアウトしたときに適用されます。INI ファイルは、FTP サーバ（『*Cisco Virtualization Experience Client 6215 Administration Guide*』の「Appendix A: Central Configuration: Automating Updates and Configurations」を参照）、または Cisco VXC Manager の Default Device Configuration (DDC) メカニズム（「[Cisco VXC 6215 オペレーティング システムのイメージの更新](#)」(P.4-2) を参照）を使用して、Cisco VXC 6215 に自動的に展開されます。

デバイス検出

起動時に、Cisco VXC 6215 クライアントは、「[デバイスの追加および自動検出](#)」(P.2-13) で説明している自動化された検出プロセスに従います。管理者は、「[デバイスの手動追加](#)」(P.2-15) で説明している手動検出プロセスを実行することもできます。クライアントが Cisco VXC Manager にチェックイン（または登録）すると、それが Cisco VXC Manager インターフェイスに表示され、管理できるようになります。最初のチェックイン中に、クライアントの Cisco VXC Manager Agent が完全なハードウェアおよびソフトウェア インベントリを提供します。この情報を更新するには、Device Manager の詳細ペインでデバイスを右クリックし、[Refresh Device Information] を選択します。

ハートビートとヘルス ステータス

Cisco VXC 6215 上の Cisco VXC Manager Agent は Configuration Manager のプリファレンスで指定された間隔に従って、ハートビートのチェックインを送信します。デフォルトのチェックイン時間は 1 時間です。

Cisco VXC 6215 オペレーティング システムのイメージの更新

Cisco VXC 6215 SUSE Linux クライアントのファームウェア イメージを更新するには、次の手順に従います。

手順

-
- ステップ 1** 次の URL にあるシスコのソフトウェア ダウンロード ページから OS イメージをダウンロードまたはコピーします。
<http://www.cisco.com/cisco/software/navigator.html?mdfid=283759601&i=rm>
 - ステップ 2** Cisco VXC Manager がインストールされているサーバ上で、Zip 圧縮された OS イメージ ファイルをローカル フォルダに展開します。
 - ステップ 3** パッケージを登録します（「[スクリプト ファイル \(.RSP\) からのパッケージの登録](#)」(P.3-35) を参照）。パッケージの登録プロセスで RSP ファイルを求められた場合は、Zip を展開したパッケージに含まれる RSP ファイルを参照して選択します。
 - ステップ 4** DDC プリファレンスを設定します（「[デフォルト デバイス コンフィギュレーションのプリファレンスの設定](#)」(P.7-67)）。

ステップ 5 Cisco VXC 6215 のアップグレードには、デフォルト デバイス コンフィギュレーションを使用するか、またはドラッグ アンド ドロップ手法を使用できます（「[デフォルト デバイス コンフィギュレーションの管理](#)」(P.7-67) および「[ドラッグ アンド ドロップ手法を使用したデバイス アップデートのスケジューリング設定](#)」(P.5-35) を参照）。



(注) 新しいイメージ DDC（たとえば、DDC_10）から古いイメージ DDC（たとえば、DDC_09）に Cisco VXC 6215 シンクライアントをダウングレードしてから、新しいイメージ DDC をクライアントに再適用した場合は、操作が失敗します。ダウングレード後に新しいイメージ DDC（DDC_10）をシンクライアントに正常に再適用するには、事前に Cisco VXC Manager を使用して新しいイメージ DDC の名前を変更する必要があります（たとえば、DDC_10a）。

Cisco VXC 6215 アドオン パッケージのパッケージングと展開

ここでは、Cisco VXC 6215 アドオン パッケージに対する Cisco VXC Manager パッケージの追加の管理タスクを実行する方法について説明します。



(注) この項には、Cisco VXC 6215 アドオンにだけ適用可能な追加の Package Manager の操作が含まれていません。

- 「[Cisco VXC 6215 のデフォルト アドオン](#)」(P.4-3)
- 「[オプションの音声およびビデオ ファームウェア アドオン](#)」(P.4-4)
- 「[Cisco VXC アドオン ソフトウェア パッケージのダウンロード](#)」(P.4-5)
- 「[Cisco VXC Manager アドオン パッケージの管理](#)」(P.4-5)
- 「[パッケージの登録による Cisco アドオンの有効化](#)」(P.4-5)
- 「[パッケージの登録による Cisco アドオンの無効化](#)」(P.4-8)

Cisco VXC 6215 のデフォルト アドオン

Cisco VXC 6215 ファームウェアには、シンクライアントのためにセキュリティを強化し、役立つ機能をユーザに提供しながら、SUSE Linux ベースのオペレーティング システムのユーザへの露出を最小限に抑えるためのデフォルトのアドオンが含まれています。

アドオンは、基盤となっているオペレーティング システムのファイルに影響を与えることなく、Cisco VXC 6215 シンクライアントの追加のカスタマイズされた機能を提供する、機能が限定されたソフトウェア コンポーネントです。

Cisco VXC 6215 のデフォルトでバンドルされている Cisco アドオン アプリケーションには、次のものが含まれています。

Autologin

Autologin (autologin-1.0-2.sletc11sp1.rpm) アドオンでは、Cisco VXC 6215 がユーザにクレデンシャルの入力を要求することなく、シンユーザ クレデンシャルを使用して起動できます。

また、Autologin アドオンは Control Center などの管理者用アプリケーションへのユーザ アクセスも制限します。ユーザは Connection Manager、Diagnostics、Diagnostics Log Viewer、Volume Control などのアプリケーションへのアクセス権を持っています。

CiscoConfig

CiscoConfig アドオン (ciscoconfig-1.0-2.sletc11sp1.rpm) は、Autologin アドオンで提供されるもの以外の追加機能をユーザに提供します。CiscoConfig アドオンを使用すると、Cisco VXC 6215 は、Application Browser ([Computer] > [More Applications]) からシステム情報、表示設定、Cisco VXC Manager 設定、および Firefox ブラウザなどの追加アプリケーションへのアクセスを提供します。

Ssh_opt

Cisco VXC 6215 は、SSH を使用するシンクライアントへのリモート接続をサポートできます。強化されたセキュリティを提供するよう、デフォルトでは ssh_opt アドオン (ssh_opt-1.0-1.0.sletc11sp1.rpm) で SSH 機能が無効になっています。クライアントへのリモート SSH アクセスを許可するには、管理者がこのアドオンを無効にできます。



(注)

Cisco VXC Manager を使用して Cisco VXC 6215 デバイスで SSH 機能を有効にするには、Device Manager でデバイスを右クリックし、[Execute Command] を選択します。[Execute Command] ダイアログ ボックスに /etc/init.d/sshd start と入力し、SSH 機能を有効にします。Ssh_opt アドオンが Cisco VXC デバイスにインストールされた場合、Ssh_opt アドオンは OpenSSH アイドルタイムアウトを 30 分、最大タイムアウトを 60 分に設定します。(これらのデフォルト SSH アイドルタイムアウト値は変更できません)。

オプションの音声およびビデオ ファームウェア アドオン

Cisco VXC 6215 で Unified Communications をサポートするには、音声およびビデオ ファームウェア アドオンを購入してインストールする必要があります。オプションの音声およびビデオ ファームウェア アドオンでは、Cisco UC Integration for Microsoft Lync および Cisco Unified Personal Communicator に Unified Communications 機能が提供されます。

音声およびビデオ ファームウェア アドオンを使用すると、仮想環境でユーザがシンクライアントから Cisco UC Integration for Microsoft Lync または Cisco Unified Personal Communicator を使用できます。音声およびビデオ ファームウェアはシンクライアント上で動作し、Cisco UC Integration for Microsoft Lync または Cisco Unified Personal Communicator は Windows がホストする仮想デスクトップ上で動作します。

音声およびビデオ ファームウェア アドオンでの電源管理設定

デフォルトでは、Cisco VXC 6215 は電源管理設定 (EnergyWise) をサポートし、指定された期間の経過後にクライアントがスリープモードになります。音声およびビデオ ファームウェア アドオンが有効になっている場合、この電源管理設定が無効になり、クライアントはスリープモードになりません。

オプションの音声およびビデオ ファームウェア アドオンの詳細については、『*Deployment Guide for Voice and Video Firmware for Cisco Virtualization Experience Client 6215*』を参照してください。

Cisco VXC アドオン ソフトウェア パッケージのダウンロード

Cisco VXC 6215 アドオン ソフトウェア パッケージをダウンロードするには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1** ワークステーションから、<http://tools.cisco.com/support/downloads/pub/Redirect.x?mdfid=278875240> にアクセスします。
- ステップ 2** 自分の Cisco.com のユーザ ID とパスワードでサインインします。
- ステップ 3** [Download Software] ページで、次の手順に従います。
 - a. [Products] > [Voice and Unified Communications] > [IP Telephony] > [Virtualized Endpoints] を選択します。
 - b. その次のページが表示されたら、[Cisco Virtualization Experience Client 6000 Series] を選択します。
 - c. [Cisco Virtualization Experience Client 6215 Series] を選択します。
 - d. Add Ons フォルダで、必要なアドオンを選択します。
 - e. WinZip ファイルの横にある [Download] ボタンをクリックして、選択したリリースについての詳細情報が表示されるウィンドウを起動し、[Download Cart] に追加します。
- ステップ 4** ソフトウェアおよびイメージの情報が正しいことを確認し、[Proceed With Download] をクリックします。
- ステップ 5** [User Details] セクションに適切な情報を入力して条件に同意し、[Accept] をクリックします。
- ステップ 6** Cisco End User License Agreement を読み、[Agree] をクリックします。
- ステップ 7** Cisco VXC 6215 アドオンの zip ファイルをワークステーションにダウンロードして保存します。
- ステップ 8** ホストまたはワークステーションで保存したファイルの場所に移動し、ファイルをローカル ドライブまたはローカル ディスクに解凍します。

Cisco VXC Manager アドオン パッケージの管理

Cisco VXC Manager Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] をクリックすると、Package Manager が表示されます。Package Manager では、Cisco VXC Manager 環境内のデバイスに配布できる Cisco VXC Manager パッケージを簡単に表示、管理できます。

Package Wizard を使用して Cisco VXC Manager パッケージを作成して登録する前に、アップデートの配信プロセスおよび Cisco VXC Manager パッケージの内容について理解し、登録する既存の Cisco VXC Manager パッケージの場所を確認し、ベース イメージの場所を確認し、バンドルされたイメージを作成する場合に追加するアドオンについて確認しておく必要があります。また、イメージまたはコンフィギュレーションを取得するデバイスにすでに Cisco VXC Manager Agent がインストールされていることを確認する必要があります。登録された Cisco VXC Manager パッケージは、更新として Cisco VXC Manager ネットワーク内のデバイスに配布できます（「[Update Manager](#)」(P.5-29) を参照）。

パッケージの登録による Cisco アドオンの有効化

Cisco アドオンを有効にするには、次の手順を使用します。

手順

- ステップ 1** Cisco VXC Manager がインストールされているサーバ上で、アドオン ファイルをローカル フォルダに展開します（「[Cisco VXC アドオン ソフトウェア パッケージのダウンロード](#)」(P.4-5) を参照）。

- ステップ 2** アドオン用に新しいフォルダを作成します。
- ステップ 3** このフォルダ内に、`ciscoaddon` プレフィックスで始まる名前の RSP ファイルを作成します（存在していない場合）。たとえば、`ciscoaddontest1.rsp` という名前の RSP ファイルを作成し、テキスト エディタで必要な内容を入力し、`.rsp` という拡張子を付けて保存します。
- ステップ 4** アドオン パッケージを有効にするには、RSP ファイルが次のような内容であることを確認します。

```
[Version]
Number=ciscoaddontest1
Description=Push and parse wlx.ini and image & addon update package
OS=SLX
Category=Other Packages
USE_Pxe=NO

[Script]
EX "/bin/regset --persist System IniFileSource server"
RP "<regroot>"
EX "/usr/bin/perl /etc/addons.d/dispatcher.d/60.fetchIni eth0 up"
EX "/usr/bin/perl /sbin/dhcp2registry"
EX "/usr/sbin/thinclient-config --set-update-mode addons"
EX "sync"
EX "sleep 2"
RB
```

ここで、「Number=」セグメントは、RSP ファイル名およびフォルダ名と正確に一致する値にする必要があります。



(注)

音声およびビデオ ファームウェア アドオンをシンクライアントにプッシュする場合、アドオンのダウンロード後にシンクライアントを2回リブートして、完全にアップデートを実行する必要があります。この要件が自動的に満たされるようにするには、音声およびビデオ ファームウェア アドオンで 사용되는 RSP ファイルに、アップデート後に2回リブートするようにシンクライアントに指示する追加の RB パラメータが含まれている必要があります。

```
[Version]
Number=ciscoaddontest1
Description=Push and parse wlx.ini and image & addon update package
OS=SLX
Category=Other Packages
USE_Pxe=NO

[Script]
EX "/bin/regset --persist System IniFileSource server"
RP "<regroot>"
EX "/usr/bin/perl /etc/addons.d/dispatcher.d/60.fetchIni eth0 up"
EX "/usr/bin/perl /sbin/dhcp2registry"
EX "/usr/sbin/thinclient-config --set-update-mode addons"
EX "sync"
EX "sleep 2"
RB
RB
```

- ステップ 5** アドオンのフォルダ内で、RSP ファイルと一致する名前、たとえば `ciscoaddontest1` のような名前のフォルダを作成します。
- ステップ 6** このフォルダ内に、`wlx` および `ADDONS` という名前の2つのサブフォルダを作成します。
- ステップ 7** Zip を展開したアドオン ファイルから RPM ファイル（たとえば、`vxc-8.6-563.sletc11sp1.rpm`）を新しい `ADDONS` フォルダにコピーします。

ステップ 8 ADDONS フォルダに、次のようにフォルダ内のすべてのアドオンがリストされた、directory (拡張子なし) という名前のファイルを作成します。

```
vxc-8.6-563.sletc11sp1.rpm
```

ファイルを作成するには、テキストエディタでアドオンファイル名を入力し、「directory」という名前でファイルを保存してから、ファイル名を変更して拡張子を削除します。

ステップ 9 wlx フォルダ内に、wlx.ini ファイルを作成します。



(注)

この例では、アドオンの導入のためのフォルダ構造および対応するファイルを次のようにする必要があります。

```
~/ciscoaddontest1/wlx/wlx.ini
~/ciscoaddontest1/ADDONS/vxc-8.6-563.sletc11sp1.rpm
~/ciscoaddontest1/ADDONS/directory
~/ciscoaddontest1.rsp
```

ステップ 10 wlx.ini ファイルの内容が次のとおりであることを確認します。

```
Update.Preserve_changes=Yes
Update.Mode=Addons
InstallAddons=vxc-8.6-563.sletc11sp1.rpm
```

ステップ 11 wlx.ini ファイルで、「InstallAddons=」セグメントに RPM ファイル名とまったく同じ値があることを確認します。



(注)

複数のアドオンをインストールする場合は、InstallAddons セグメント内のカンマ区切りのリストにすべての RPM ファイルを指定する必要があります。例：

```
InstallAddons=addon1.rpm,addon2.rpm,addon3.rpm
```

ステップ 12 Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] を右クリックして [New] > [Package] を選択し、Package Wizard を開きます。

ステップ 13 [Register a Package from a Script File (.RSP)] オプションをクリックして [Next] をクリックします。

ステップ 14 登録する Cisco VXC Manager パッケージの Cisco VXC Manager スクリプト ファイル (RSP) のパス (例: ciscoaddontest1.rsp) を入力し ([Browse] を使用してファイルを選択することもできます)、[Next] をクリックします。[Software Package Information] ダイアログボックスが開きます。ウィザードによって Cisco VXC Manager パッケージの名前、説明、およびカテゴリが取得されて表示されます。

ステップ 15 Cisco VXC Manager パッケージを配布するかどうかに基づいて (配布する場合はアクティブ)、[Active] チェックボックスをオンまたはオフにします。

ステップ 16 [Next] をクリックします。

ウィザードによって、新しい Cisco VXC Manager パッケージを作成して登録する準備ができたことが通知されます。

ステップ 17 [Next] をクリックし、Cisco VXC Manager パッケージを作成および登録します。

ステップ 18 Cisco VXC Manager パッケージの作成と登録が完了したら、[Finish] をクリックします。Cisco VXC Manager パッケージがマスター リポジトリにコピーされ、該当するカテゴリの下に表示されます。これで、Cisco VXC Manager パッケージが配布可能になりました ([「デバイス アップデートのスケジュールの管理」\(P.5-29\)](#) を参照)。

パッケージの登録による Cisco アドオンの無効化

Cisco アドオンを無効にする方法には、次に手順を説明するように、`remove-packages.sh` ファイルを使用する方法と、`RemoveAddons` INI パラメータを使用する方法の 2 つがあります。



(注) Cisco VXC Manager を使用してアドオンをアンインストールできますが、デバイスを新しいバージョンのファームウェアにアップグレードした場合、これらのアドオンがアップデートされたファームウェアで再び有効になることがあります。

remove-packages.sh ファイルの使用によるアドオンの無効化

`remove-packages.sh` ファイルを使用して Cisco アドオンを無効にするには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1 Cisco VXC Manager がインストールされているサーバ上で、アドオン用の新しいフォルダを作成します。
- ステップ 2 このフォルダ内に、`ciscoaddon` プレフィックスで名前が始まる RSP ファイル、たとえば `ciscoaddon-remove1.rsp` を作成します。
- ステップ 3 アドオン パッケージを無効にするには、RSP ファイルが次のような内容であることを確認します。

```
[Version]
Number=ciscoaddon-remove1
Description=Remove sample Cisco Add-on package
OS=SLX
Category=Other Packages
USE_Pxe=NO
```

```
[Script]
CO "SLC"
LU
SF "<regroot">/*" "/tmp/"
EX "dos2unix /tmp/remove=packages.sh"
EX 'sh /tmp/remove-packages.sh"
EL
RB
```

- ステップ 4 RSP スクリプトで、「Number=」セグメントに RSP ファイル名とまったく同じ値があることを確認します。
- ステップ 5 アドオンのフォルダ内に、RSP ファイル名と一致する名前、たとえば `ciscoaddon-remove1` のような名前のサブフォルダを作成します。
- ステップ 6 作成したサブフォルダ内に、`remove-packages.sh` ファイルを作成します。

`remove-packages.sh` ファイルは次のような内容にする必要があります。

```
#!/bin/bash
for addon in ciscoaddon-remove1
do
/usr/sbin/addon-remove $addon
done
```




(注) アドオンの導入のためのフォルダ構造および対応するファイルを次のようにする必要があります。

```
~ /ciscoaddon-remove1.rsp
~ /ciscoaddon-remove1/remove-packages.sh
```

- ステップ 7** Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] を右クリックして [New] > [Package] を選択し、Package Wizard を開きます。
- ステップ 8** [Register a Package from a Script File (.RSP)] オプションをクリックして [Next] をクリックします。
- ステップ 9** 登録する Cisco VXC Manager パッケージの Cisco VXC Manager スクリプト (RSP) のパス (例: ciscoaddon-remove1.rsp) を入力し ([Browse] を使用してファイルを選択することもできます)、[Next] をクリックします。[Software Package Information] ダイアログボックスが開きます。ウィザードによって Cisco VXC Manager パッケージの名前、説明、およびカテゴリが取得されて表示されます。
- ステップ 10** Cisco VXC Manager パッケージを配布するかどうかに基づいて (配布する場合はアクティブ)、[Active] チェックボックスをオンまたはオフにします。
- ステップ 11** [Next] をクリックします。ウィザードによって、新しい Cisco VXC Manager パッケージを作成して登録する準備ができたことが通知されます。
- ステップ 12** [Next] をクリックし、Cisco VXC Manager パッケージを作成および登録します。
- ステップ 13** Cisco VXC Manager パッケージの作成と登録が完了したら、[Finish] をクリックします。Cisco VXC Manager パッケージがマスター リポジトリにコピーされ、該当するカテゴリの下に表示されます。これで、Cisco VXC Manager パッケージが配布可能になりました ([「デバイス アップデートのスケジュールの管理」\(P.5-29\)](#) を参照)。

RemoveAddons INI パラメータの使用によるアドオンの無効化

RemoveAddons INI パラメータを使用して Cisco アドオンを無効にするには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1** Cisco VXC Manager がインストールされているサーバ上で、アドオン用の新しいフォルダを作成します。
- ステップ 2** このフォルダ内に、ciscoaddon プレフィックスで名前が始まる RSP ファイル、たとえば ciscoaddon-remove2.rsp を作成します。
- ステップ 3** アドオン パッケージを無効にする場合は、RSP ファイルが次のような内容であることを確認します。

```
[Version]
Number=ciscoaddon-remove2
Description=Push and parse wlx.ini and image update package
OS=SLX
Category=Other Packages
USE_Pxe=NO

[Script]
EX "/bin/regset --persist System IniFileSource server"
RP "<regroot>"
```

```
EX "/usr/bin/perl /etc/addons.d/dispatcher.d/60.fetchIni eth0 up"
EX "/usr/bin/perl /sbin/dhcp2registry"
EX "/usr/sbin/thinclient-config --set-update-mode addons"
EX "sync"
EX "sleep 2"
RB
```

- ステップ 4** RSP スクリプトで、「Number=」セグメントに RSP ファイル名およびフォルダ名とまったく同じ値があることを確認します。
- ステップ 5** アドオンのフォルダ内で、RSP ファイル名と一致する名前、たとえば ciscoaddon-remove2 のような名前のサブフォルダを作成します。
- ステップ 6** このフォルダ内に、**wlx** という名前のサブフォルダを作成します。
- ステップ 7** wx フォルダ内に、wx.ini ファイルを作成します。



(注) アドオンの導入のためのフォルダ構造および対応するファイルを次のようにする必要があります。
~/ciscoaddon-remove2/wlx/wlx.ini
~/ciscoaddon-remove2.rsp

- ステップ 8** wx.ini ファイルの内容が次のとおりであることを確認します。

```
Update.Preserve_changes=Yes
Update.Mode=Addons
RemoveAddons=ciscoaddon-remove2.rpm
```

- ステップ 9** wx.ini ファイルで、「RemoveAddons=」セグメントに削除するアドオンの RPM ファイル名とまったく同じ値があることを確認します。



(注) 複数のアドオンを削除する場合は、RemoveAddons セグメント内のカンマ区切りのリストにすべての RPM ファイルを指定する必要があります。例：
RemoveAddons=ciscoaddon-remove2.rpm,ciscoaddon-remove3.rpm,ciscoaddon-remove4.rpm

- ステップ 10** Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] を右クリックして [New] > [Package] を選択し、Package Wizard を開きます。
- ステップ 11** [Register a Package from a Script File (.RSP)] オプションを選択して [Next] をクリックします。
- ステップ 12** 登録する Cisco VXC Manager パッケージの Cisco VXC Manager スクリプト (RSP) のパス (例: ciscoaddontest1.rsp) を入力し ([Browse] を使用してファイルを選択することもできます)、[Next] をクリックします。[Software Package Information] ダイアログボックスが開きます。ウィザードによって Cisco VXC Manager パッケージの名前、説明、およびカテゴリが取得されて表示されます。
- ステップ 13** Cisco VXC Manager パッケージを配布するかどうかに基づいて (配布する場合はアクティブ)、[Active] チェックボックスをオンまたはオフにします。
- ステップ 14** [Next] をクリックします。ウィザードによって、新しい Cisco VXC Manager パッケージを作成して登録する準備ができたことが通知されます。
- ステップ 15** [Next] をクリックし、Cisco VXC Manager パッケージを作成および登録します。

- ステップ 16** Cisco VXC Manager パッケージの作成と登録が完了したら、[Finish] をクリックします。Cisco VXC Manager パッケージがマスター リポジトリにコピーされ、該当するカテゴリの下に表示されます。これで、Cisco VXC Manager パッケージが配布可能になりました（「[デバイス アップデートのスケジュールの管理](#)」(P.5-29) を参照）。

Cisco VXC 6215 クライアント コンフィギュレーションの更新

SUSE Linux パッケージを作成して Cisco VXC 6215 クライアント コンフィギュレーションをアップグレードするには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1** クライアント設定を含めるフォルダを作成します（例：6215Configs）。
- ステップ 2** 6215Configs フォルダに、名前が SLE1.rsp で次の内容が含まれる RSP ファイルを作成します。
- ```
[Version]
Number=SLE1
OS=SLX
Category=Other Packages
[Script]
RP= "<regroot>"
```
- ここで、「Number=」セグメントは、RSP ファイル名と正確に一致する値にする必要があります。
- ステップ 3** また、6215Configs フォルダに、RSP ファイル名と同じ名前を使用してサブフォルダを作成します（例：SLE1）。
- ステップ 4** SLE1 フォルダ内に、WLX という名前のサブフォルダを作成します。
- ステップ 5** WLX フォルダに、必要なコンフィギュレーションが含まれる wlx.ini という名前のファイルを作成します。（詳細については、『*Cisco Virtual Experience Client 6215 INI Files Reference Guide*』を参照してください）。たとえば、次のようになります。
- .rsp イメージの場所と名前：  
C:\VXC-M\6215Configs\SLE1.rsp
  - WLX ディレクトリの場所と名前：  
C:\VXC-M\6215Configs\SLE1\WLX
  - WLX ディレクトリ内の wlx.ini ファイルの場所と名前：  
C:\VXC-M\6215Configs\SLE1\WLX\wlx.ini
- ステップ 6** Administrator Console のツリー ペインで、[Package Manager] を展開します。
- ステップ 7** 詳細ペインで [Other Packages] を右クリックし、[New] > [Package] を選択します。
- ステップ 8** [Register a Package from a Script file (.RSP)] を選択し、[Next] をクリックします。
- ステップ 9** [Browse] をクリックし、登録する .rsp パッケージ ファイルのファイルパス（例：C:\VXC-M\6215Configs\SLE1.rsp）を選択し、[Open] をクリックします。
- ステップ 10** [Next] をクリックして、Package Wizard のサマリーを表示します。
- ステップ 11** [Next] をクリックして、[Package Registration Progress] 画面を表示します。
- ステップ 12** [Next] をクリックして、パッケージを作成します。
- ステップ 13** パッケージの作成と登録が完了したら、[Finish] をクリックします。

- ステップ 14** Cisco VXC 6215 をアップグレードするには、デフォルト デバイス コンフィギュレーションを使用するか、またはドラッグアンドドロップ手法を使用することができます（「デフォルト デバイス コンフィギュレーションの管理」(P.7-67) および「ドラッグアンドドロップ手法を使用したデバイス アップデートのスケジュール設定」(P.5-35) を参照）。

## Cisco VXC 2111/2211 PCoIP クライアントのアップグレード手順

次の項では、PCoIP ファームウェア イメージおよびクライアント コンフィギュレーションを更新する方法について説明します。

- 「PCoIP ファームウェア イメージの更新」(P.4-12)
- 「PCoIP クライアント コンフィギュレーションの更新 (ThreadX パッケージのビルドと登録)」(P.4-13)

### PCoIP ファームウェア イメージの更新

Cisco VXC PCoIP クライアントでファームウェア イメージを更新するには、次の手順に従います。

#### 手順

- ステップ 1** 次の URL にあるシスコのソフトウェア ダウンロード ページから PCoIP イメージ パッケージをダウンロードします。
- <http://www.cisco.com/cisco/software/navigator.html?mdfid=283759601&i=rm>
- ステップ 2** Cisco VXC Manager がインストールされているサーバ上で、Zip 圧縮されたファームウェア ファイルをローカル フォルダに展開します。
- ステップ 3** パッケージを登録します（「スクリプト ファイル (.RSP) からのパッケージの登録」(P.3-35) を参照）。パッケージの登録プロセスで RSP ファイルを求められた場合は、Zip を展開したパッケージに含まれる RSP ファイルを参照して選択します。
- ステップ 4** DDC プリファレンスを設定します（「デフォルト デバイス コンフィギュレーションのプリファレンスの設定」(P.7-67)）。
- ステップ 5** Cisco VXC 2111/2211 のアップグレードには、デフォルト デバイス コンフィギュレーションを使用するか、またはドラッグアンドドロップ手法を使用できます（「デフォルト デバイス コンフィギュレーションの管理」(P.7-67) および「ドラッグアンドドロップ手法を使用したデバイス アップデートのスケジュール設定」(P.5-35) を参照）。

### PCoIP クライアント コンフィギュレーションの更新 (ThreadX パッケージのビルドと登録)

ThreadX デバイスへの大規模展開には、次のコンフィギュレーション パッケージを設定できます。

- **VMwareView パッケージ** : VMwareView パッケージを ThreadX デバイスに展開し、VM サーバ設定を設定できます。
- **ビデオ パッケージ** : ビデオ パッケージを ThreadX デバイスに展開し、最低および最高イメージ品質設定などのグローバル ビデオ設定を設定できます。
- **RDP パッケージ** : RDP パッケージを ThreadX デバイスに展開し、グローバル RDP 設定を設定できます。



**(注)** シスコは ThreadX ファームウェアを実行している Cisco VXC 2111/2211 PCoIP クライアントでの RDP ネットワーク実装のサポートは提供していません。

- **追加のコンフィギュレーション パッケージ** : タイムゾーンや多言語設定などの追加のコンフィギュレーション パッケージを展開することもできます。

このようなパッケージの設定後に、DDC を使用するか、またはドラッグ アンド ドロップして、目的のデバイスへのパッケージの展開スケジュールを設定できます (パッケージのスケジューリングの詳細については、「[Update Manager](#)」(P.5-29) を参照してください)。



**ヒント** Cisco VXC Manager にバンドルされているサンプル ThreadX パッケージを使用できます。カスタマイズしたパッケージを作成するには、これらのサンプル ThreadX パッケージを変更し、そのパッケージを ThreadX デバイスに展開できます。サンプル ThreadX パッケージは Package Manager ノードの ThreadX Configuration フォルダ内にあります。

## 既存のサンプル ThreadX パッケージのカスタマイズ

既存のサンプル ThreadX パッケージをカスタマイズするには、次の注意事項に従ってください。

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで、[Package Manager] > [ThreadX Configuration] を展開します。
- ステップ 2** 詳細ペインで目的のサンプル パッケージを右クリックして [View Package Script] を選択し、[Package Script] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスには、Cisco VXC Manager パッケージのスクリプトが表示されます。
- ステップ 3** [Edit and Save Script to Database ONLY] チェックボックスをオンにして、必要に応じてパラメータを設定します。
- ステップ 4** 変更が完了したら、[OK] をクリックします。
- ステップ 5** デフォルト デバイス コンフィギュレーション ([「デフォルト デバイス コンフィギュレーションの管理」\(P.7-67\)](#) を参照) を使用するか、またはドラッグ アンド ドロップ手法 ([「ドラッグ アンド ドロップ手法を使用したデバイス アップデートのスケジュール設定」\(P.5-35\)](#) を参照) を使用して、パッケージの更新スケジュールを設定します。

## 新しい ThreadX パッケージの作成

既存の ThreadX パッケージに基づいてカスタマイズした追加の ThreadX パッケージを設定するには、次の注意事項に従ってください。

## 手順

- 
- ステップ 1** 新しいパッケージを含めるフォルダを作成します (例: VMwareViewTest1)。
  - ステップ 2** Administrator Console のツリー ペインで、[Package Manager] > [ThreadX Configuration] を展開します。
  - ステップ 3** 詳細ペインで目的のパッケージを右クリックし、[Export Package Script] を選択します。
  - ステップ 4** ステップ 1 で作成したフォルダを参照し、[OK] をクリックします。
  - ステップ 5** エクスポートした RSP ファイルの名前を、ステップ 1 で作成したフォルダ名と一致するように変更します (例: VMwareViewTest1.rsp)。
  - ステップ 6** テキスト エディタを使用して、ご使用の環境の要件に合わせて RSP ファイル スクリプトを編集します。

次に、VMwareView スクリプトの例を示します。

```
[Version]
Number=VMWareViewTest1
Description=ThreadX VMWareView Configuration
OS=TDC
Category=ThreadX Configuration
[Script]
IP=10.10.10.1
SSL=0
AutoLaunchIfOnlyOneDesktop=0
AutoConnect=0
Enable Kiosk Mode=1
Enable custom username=1
Username=user123
Password=
```

Number= セグメントに RSP ファイル名およびフォルダ名とまったく同じ値があることを確認してください (この命名規則はすべてのパッケージに適用されます)。

- ステップ 7** パッケージを登録します (「スクリプト ファイル (.RSP) からのパッケージの登録」(P.3-35) を参照)。
  - ステップ 8** デフォルト デバイス コンフィギュレーション (「デフォルト デバイス コンフィギュレーションの管理」(P.7-67) を参照) を使用するか、またはドラッグ アンド ドロップ手法 (「ドラッグ アンド ドロップ手法を使用したデバイス アップデートのスケジュール設定」(P.5-35) を参照) を使用して、パッケージの更新スケジュールを設定します。
- 

## ThreadX VMware View パッケージでサポートされるパラメータ

VMware View パッケージを使用すると、ThreadX デバイスで [View Connection Server] 設定を変更できます。VMware View パッケージを設定するには、「既存のサンプル ThreadX パッケージのカスタマイズ」(P.4-13) および「新しい ThreadX パッケージの作成」(P.4-14) を参照してください。次の表に、VMware View パッケージのスクリプトでサポートされるパラメータを示します。

表 4-1 VMWare View Package パラメータの定義

| パラメータ                       | 定義                                                        |
|-----------------------------|-----------------------------------------------------------|
| IP=                         | Connection サーバの IP アドレス                                   |
| Port=                       | ポート番号 (1 ~ 65535 の整数値)。                                   |
| SSL=                        | セキュア接続 (SSL) の使用。使用しない場合は 0 を入力し、使用する場合は 1 を入力します。        |
| AutoLaunchIfOnlyOneDesktop= | デスクトップが 1 台だけの場合は自動的に起動。使用しない場合は 0 を入力し、使用する場合は 1 を入力します。 |
| AutoConnect=                | 起動時に常にこのサーバに接続する。使用しない場合は 0 を入力し、使用する場合は 1 を入力します。        |
| Enable Kiosk Mode=          | 使用しない場合は 0 を入力し、使用する場合は 1 を入力します。                         |
| Enable custom username=     | 使用しない場合は 0 を入力し、使用する場合は 1 を入力します。                         |
| Username=                   | カスタム ユーザ名を有効にしている場合 (Enable custom username=1) はユーザ名      |
| Password=                   | 指定したユーザ名のパスワードを指定する。                                      |

## VMware View パッケージの例

次に、VMware View パッケージのスキプトの例を示します。

```
[Version]
Number=VMWareView_Test
Description=Test Script
OS=TDC
Category=ThreadX Configuration
[Script]
IP=10.100.5.5
Port=999
SSL=1
AutoLaunchIfOnlyOneDesktop = 1
AutoConnect=1
Enable Kiosk Mode=1
Enable custom username = 1
Username=Tester
Password=PW
```

## ThreadX Language パッケージでサポートされるパラメータ

Language パッケージを使用すると、ThreadX デバイスで言語とキーボードの設定を変更できます。Language パッケージを設定するには、「既存のサンプル ThreadX パッケージのカスタマイズ」(P.4-13) および「新しい ThreadX パッケージの作成」(P.4-14) を参照してください。次の項では、Language パッケージのスキプトでサポートされるパラメータについて説明します。

### Language=

Language= パラメータでは、デバイスの画面に表示される GUI の言語を設定できます。

表 4-2 Language パラメータの値

| 言語       | パラメータ値 |
|----------|--------|
| 中国語（簡体字） | zh_CN  |
| 中国語（繁体字） | zh_TW  |
| 英語       | en     |
| フランス語    | fr     |
| ドイツ語     | de     |
| ギリシャ語    | el     |
| イタリア語    | it     |
| 日本語      | ja     |
| 韓国語      | ko     |
| ポルトガル語   | pt     |
| スペイン語    | es     |

## Keyboard Layout=

Keyboard Layout= パラメータでは、選択した言語に応じて、キーボードの言語およびレイアウトを設定します。

表 4-3 Keyboard Layout パラメータの値

| キーボード レイアウトの言語                  | パラメータ値          |
|---------------------------------|-----------------|
| ベルギー語、ISO-8859-1                | be.iso          |
| ベルギー語、ISO-8859-1（アクセント キー）      | be.iso.acc      |
| デンマーク語、コードページ 865               | danish.cp865    |
| デンマーク語、ISO-8859-1               | danish.iso      |
| デンマーク語、ISO-8859-1（アクセント キー）     | danish.iso.acc  |
| オランダ語、ISO-8859-1（アクセント キー）      | dutch_iso.acc   |
| フィンランド語、コードページ 850              | finnish.cp850   |
| フィンランド語、ISO-8859-1              | finnish.iso     |
| フィンランド語、ISO-8859-1（アクセント キー）    | finnish.iso.acc |
| フランス語（カナダ）、ISO-8859-1（アクセント キー） | fr.ca.iso.acc   |
| フランス語、dvorak 系                  | fr.dvorak       |
| フランス語、dvorak 系（アクセント キー）        | fr.dvorak.acc   |
| フランス語、ISO-8859-1                | fr.iso          |
| フランス語、ISO-8859-1（アクセント キー）      | fr.iso.acc      |
| ドイツ語、コードページ 850                 | german.cp850    |
| ドイツ語、ISO-8859-1                 | german.iso      |
| ドイツ語、ISO-8859-1（アクセント キー）       | german.iso.acc  |
| ギリシャ語、ISO-8859-7（104 キー）        | el.iso07        |



表 4-3 Keyboard Layout パラメータの値 (続き)

| キーボード レイアウトの言語                         | パラメータ値                |
|----------------------------------------|-----------------------|
| イタリア語、ISO-8859-1                       | it.iso                |
| 日本語、106/109                            | jp.106                |
| 日本語、106x (Ctrl と Shift の入れ替え)          | jp.106x               |
| 韓国語、Dubeolsik、ISO-8859-1               | kr.iso                |
| 南米語                                    | latinamerican         |
| 南米語 (アクセント キー)                         | latinamerican.iso.acc |
| リトアニア語                                 | lt.iso                |
| ノルウェー語、Dvorak                          | norwegian.dvorak      |
| ノルウェー語、ISO-8859-1                      | norwegian.iso         |
| ノルウェー語、ISO-8859-1 (アクセント キー)           | norwegian.iso.acc     |
| ポーランド語、ISO-8859-2 (プログラマ)              | pl.iso2.pro           |
| ポルトガル語、ISO-8859-1                      | pt.iso                |
| ポルトガル語、ISO-8859-1 (アクセント キー)           | pt.iso.acc            |
| ロシア語                                   | ru.iso                |
| スペイン語、ISO-8859-1                       | spanish.iso           |
| スペイン語、ISO-8859-1 (アクセント キー)            | spanish.iso.acc       |
| スペイン語、ISO-8859-15 (アクセント キー)           | spanish.iso15.acc     |
| スウェーデン語、コードページ 850                     | swedish.cp850         |
| スウェーデン語、ISO-8859-1                     | swedish.iso           |
| スウェーデン語、ISO-8859-1 (アクセント キー)          | swedish.iso.acc       |
| フランス語 (スイス)、コードページ 850                 | swissfrench.cp850     |
| フランス語 (スイス)、ISO-8859-1                 | swissfrench.iso       |
| フランス語 (スイス)、ISO-8859-1 (アクセント キー)      | swissfrench.iso.acc   |
| ドイツ語 (スイス)、コードページ 850                  | swissgerman.cp850     |
| ドイツ語 (スイス)、ISO-8859-1                  | swissgerman.iso       |
| ドイツ語 (スイス)、ISO-8859-1 (アクセント キー)       | swissgerman.iso.acc   |
| トルコ語 Q ISO-8859-9                      | tr.iso9.q             |
| トルコ語 Q ISO-8859-9 (アクセント キー)           | tr.iso9.q.acc         |
| 英語 (UK)、コードページ 850                     | uk.cp850              |
| 英語 (UK)、コードページ 850 (Ctrl と Caps の切り替え) | uk.cp850.ctrl         |
| 英語 (UK)、ISO-8859-1                     | uk.iso                |
| 英語 (UK)、ISO-8859-1 (Ctrl と Caps の入れ替え) | uk.iso.ctrl           |
| 英語 (US)、dvorak                         | us.dvorak             |
| 英語 (US)、dvorakx                        | us.dvorakx            |
| 英語 (US)、Emacs 用に最適化されたレイアウト            | us.emacs              |

表 4-3 Keyboard Layout パラメータの値 (続き)

| キーボード レイアウトの言語                         | パラメータ値     |
|----------------------------------------|------------|
| 英語 (US)、ISO-8859-1                     | us.iso     |
| 英語 (US)、ISO-8859-1 (アクセント キー)          | us.iso.acc |
| 英語 (US)、ISO-8859-1 (Ctrl と Caps の入れ替え) | us.pc.ctrl |
| 英語 (US)、dvorak 左手用                     | us.dvorakl |
| 英語 (US)、dvorak 右手用                     | us.dvorakr |
| 英語 (US)、従来の Unix ワークステーション             | us.unix    |

## Language パッケージの例

次に、ThreadX Language パッケージのスキプトの例を示します。

```
[Version]
Number=Language_Test
Description=Test Script
OS=TDC
Category=ThreadX Configuration
[Script]
Language=en
Keyboard Layout=us.iso
```

## ThreadX TimeZone パッケージでサポートされるパラメータ

TimeZone パッケージを使用すると、ThreadX デバイスのタイムゾーンを指定できます。TimeZone パッケージを設定するには、「既存のサンプル ThreadX パッケージのカスタマイズ」(P.4-13) および「新しい ThreadX パッケージの作成」(P.4-14) を参照してください。

次の表に、TimeZone パッケージのスキプトでサポートされるパラメータを示します。

表 4-4 TimeZone Package パラメータの定義

| パラメータ                    | 定義                                             |
|--------------------------|------------------------------------------------|
| NTP Server=              | NTP ホストの DNS 名 (IP アドレスまたは FQDN)               |
| Query Interval=          | NTP クエリの間隔 (整数値 - 分単位)                         |
| Port=                    | NTP ホストのポート (1 ~ 65535 の整数値)                   |
| Enable Daylight Savings= | サマータイムを有効にする。使用しない場合は 0 を入力し、使用する場合は 1 を入力します。 |
| Time Zone=               | 次の表に指定可能な値を示します。                               |

表 4-5 Time Zone パラメータの値

| タイム ゾーン (Time Zone)                      | パラメータ値                                      |
|------------------------------------------|---------------------------------------------|
| (GMT-12:00) International Date Line West | GMT_MINUS_1200_INTERNATIONAL_DATE_LINE_WEST |
| (GMT-11:00) Midway Island, Samoa         | GMT_MINUS_1100_MIDWAY_ISLAND                |

表 4-5 Time Zone パラメータの値 (続き)

| タイムゾーン (Time Zone)                                            | パラメータ値                            |
|---------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| (GMT-10:00) Hawaii                                            | GMT_MINUS_1000_HAWAII             |
| (GMT-09:00) Alaska                                            | GMT_MINUS_0900_ALASKA             |
| (GMT-08:00) Pacific Time (US & Canada)                        | GMT_MINUS_0800_PACIFIC_TIME       |
| (GMT-08:00) Tijuana, Baja California                          | GMT_MINUS_0800_TIJUANA            |
| (GMT-07:00) Arizona                                           | GMT_MINUS_0700_ARIZONA            |
| (GMT-07:00) Chihuahua, La Paz, Mazatlan - New                 | GMT_MINUS_0700_CHIHUAHUA_NEW      |
| (GMT-07:00) Chihuahua, La Paz, Mazatlan - Old                 | GMT_MINUS_0700_CHIHUAHUA_OLD      |
| (GMT-07:00) Mountain Time (US & Canada)                       | GMT_MINUS_0700_MOUNTAIN_TIME      |
| (GMT-06:00) Central America                                   | GMT_MINUS_0600_CENTRAL_AMERICA    |
| (GMT-06:00) Central Time (US & Canada)                        | GMT_MINUS_0600_CENTRAL_TIME       |
| (GMT-06:00) Guadalajara, Mexico City, Monterrey - New         | GMT_MINUS_0600_GUADALAJARA_NEW    |
| (GMT-06:00) Guadalajara, Mexico City, Monterrey - Old         | GMT_MINUS_0600_GUADALAJARA_OLD    |
| (GMT-06:00) Saskatchewan                                      | GMT_MINUS_0600_SASKATCHEWAN       |
| (GMT-05:00) Bogota, Lima, Quito, Rio Branco                   | GMT_MINUS_0500_BOGOTA             |
| (GMT-05:00) Eastern Time (US & Canada)                        | GMT_MINUS_0500_EASTERN_TIME       |
| (GMT-05:00) Indiana (East)                                    | GMT_MINUS_0500_INDIANA            |
| (GMT-04:30) Caracas                                           | GMT_MINUS_0430_CARACAS            |
| (GMT-04:00) Atlantic Time (Canada)                            | GMT_MINUS_0400_ATLANTIC_TIME      |
| (GMT-04:00) La Paz                                            | GMT_MINUS_0400_LA_PAZ             |
| (GMT-04:00) Manaus                                            | GMT_MINUS_0400_MANAUS             |
| (GMT-04:00) Santiago                                          | GMT_MINUS_0400_SANTIAGO           |
| (GMT-03:30) Newfoundland                                      | GMT_MINUS_0330_NEWFOUNDLAND       |
| (GMT-03:00) Brasilia                                          | GMT_MINUS_0300_BRASILIA           |
| (GMT-03:00) Buenos Aires, Georgetown                          | GMT_MINUS_0300_BUENOS_AIRES       |
| (GMT-03:00) Greenland                                         | GMT_MINUS_0300_GREENLAND          |
| (GMT-03:00) Montevideo                                        | GMT_MINUS_0300_MONTEVIDEO         |
| (GMT-02:00) Mid-Atlantic                                      | GMT_MINUS_0200_MID_ATLANTIC       |
| (GMT-01:00) Azores                                            | GMT_MINUS_0100_AZORES             |
| (GMT-01:00) Cape Verde Is.                                    | GMT_MINUS_0100_CAPE_VERDE_IS      |
| (GMT) Casablanca, Monrovia, Reykjavik                         | GMT_PLUS_0000_CASABLANCA          |
| (GMT) Greenwich Mean Time: Dublin, Edinburgh, Lisbon, London  | GMT_PLUS_0000_GREENWICH_MEAN_TIME |
| (GMT+01:00) Amsterdam, Berlin, Bern, Rome, Stockholm, Vienna  | GMT_PLUS_0100_AMSTERDAM           |
| (GMT+01:00) Belgrade, Bratislava, Budapest, Ljubljana, Prague | GMT_PLUS_0100_BELGRADE            |
| (GMT+01:00) Brussels, Copenhagen, Madrid, Paris               | GMT_PLUS_0100_BRUSSELS            |
| (GMT+01:00) Sarajevo, Skopje, Warsaw, Zagreb                  | GMT_PLUS_0100_SARAJEVO            |
| (GMT+01:00) West Central Africa                               | GMT_PLUS_0100_WEST_CENTRAL_AFRICA |

表 4-5 Time Zone パラメータの値 (続き)

| タイムゾーン (Time Zone)                                        | パラメータ値                               |
|-----------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| (GMT+01:00) Windhoek                                      | GMT_PLUS_0100_WINDHOEK               |
| (GMT+02:00) Amman                                         | GMT_PLUS_0200_AMMAN                  |
| (GMT+02:00) Athens, Bucharest, Istanbul                   | GMT_PLUS_0200_ATHENS                 |
| (GMT+02:00) Beirut                                        | GMT_PLUS_0200_BEIRUT                 |
| (GMT+02:00) Cairo                                         | GMT_PLUS_0200_CAIRO                  |
| (GMT+02:00) Harare, Pretoria                              | GMT_PLUS_0200_HARARE                 |
| (GMT+02:00) Helsinki, Kyiv, Riga, Sofia, Tallinn, Vilnius | GMT_PLUS_0200_HELSINKI               |
| (GMT+02:00) Jerusalem                                     | GMT_PLUS_0200_JERUSALEM              |
| (GMT+02:00) Minsk                                         | GMT_PLUS_0200_MINSK                  |
| (GMT+03:00) Baghdad                                       | GMT_PLUS_0300_BAGHDAD                |
| (GMT+03:00) Kuwait, Riyadh                                | GMT_PLUS_0300_KUWAIT                 |
| (GMT+03:00) Moscow, St.Petersburg, Volgograd              | GMT_PLUS_0300_MOSCOW                 |
| (GMT+03:00) Nairobi                                       | GMT_PLUS_0300_NAIROBI                |
| (GMT+03:30) Tehran                                        | GMT_PLUS_0330_TEHRAN                 |
| (GMT+04:00) Abu Dhabi, Muscat                             | GMT_PLUS_0400_ABU_DHABI              |
| (GMT+04:00) Baku                                          | GMT_PLUS_0400_BAKU                   |
| (GMT+04:00) Caucasus Standard Time                        | GMT_PLUS_0400_CAUCASUS_STANDARD_TIME |
| (GMT+04:00) Yerevan                                       | GMT_PLUS_0400_YEREVAN                |
| (GMT+04:30) Kabul                                         | GMT_PLUS_0430_KABUL                  |
| (GMT+05:00) Ekaterinburg                                  | GMT_PLUS_0500_EKATERINBURG           |
| (GMT+05:00) Islamabad, Karachi, Tashkent                  | GMT_PLUS_0500_ISLAMABAD              |
| (GMT+05:30) Chennai, Kolkata, Mumbai, New Delhi           | GMT_PLUS_0530_CHENNAI                |
| (GMT+05:30) Sri Jayawardenepura                           | GMT_PLUS_0530_SRI_JAYAWARDENEPURA    |
| (GMT+05:45) Kathmandu                                     | GMT_PLUS_0545_KATHMANDU              |
| (GMT+06:00) Almaty, Novosibirsk                           | GMT_PLUS_0600_ALMATY                 |
| (GMT+06:00) Astana, Dhaka                                 | GMT_PLUS_0600_ASTANA                 |
| (GMT+06:30) Yangon (Rangoon)                              | GMT_PLUS_0630_YANGON                 |
| (GMT+07:00) Bangkok, Hanoi, Jakarta                       | GMT_PLUS_0700_BANGKOK                |
| (GMT+07:00) Krasnoyarsk                                   | GMT_PLUS_0700_KRASNOYARSK            |
| (GMT+08:00) Beijing, Chongqing, Hong Kong, Urumqi         | GMT_PLUS_0800_BEIJING                |
| (GMT+08:00) Irkutsk, Ulaan Bataar                         | GMT_PLUS_0800_IRKUTSK                |
| (GMT+08:00) Kuala Lumpur, Singapore                       | GMT_PLUS_0800_KUALA_LUMPUR           |
| (GMT+08:00) Perth                                         | GMT_PLUS_0800_PERTH                  |
| (GMT+08:00) Taipei                                        | GMT_PLUS_0800_TAIPEI                 |
| (GMT+09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo                         | GMT_PLUS_0900_OSAKA                  |
| (GMT+09:00) Seoul                                         | GMT_PLUS_0900_SEOUL                  |
| (GMT+09:00) Yakutsk                                       | GMT_PLUS_0900_YAKUTSK                |
| (GMT+09:30) Adelaide                                      | GMT_PLUS_0930_ADELAIDE               |

表 4-5 Time Zone パラメータの値 (続き)

| タイムゾーン (Time Zone)                               | パラメータ値                    |
|--------------------------------------------------|---------------------------|
| (GMT+09:30) Darwin                               | GMT_PLUS_0930_DARWIN      |
| (GMT+10:00) Brisbane                             | GMT_PLUS_1000_BRISBANE    |
| (GMT+10:00) Canberra, Melbourne, Sydney          | GMT_PLUS_1000_CANBERRA    |
| (GMT+10:00) Guam, Port Moresby                   | GMT_PLUS_1000_GUAM        |
| (GMT+10:00) Hobart                               | GMT_PLUS_1000_HOBART      |
| (GMT+10:00) Vladivostok                          | GMT_PLUS_1000_VLADIVOSTOK |
| (GMT+11:00) Magadan, Solomon, Is., New Caledonia | GMT_PLUS_1100_MAGADAN     |
| (GMT+12:00) Auckland, Wellington                 | GMT_PLUS_1200_AUCKLAND    |
| (GMT+12:00) Fiji, Kamchatka, Marshal Is.         | GMT_PLUS_1200_FIJI        |
| (GMT+13:00) Nuku'alofa                           | GMT_PLUS_1300_NUKUALOFA   |

### TimeZone パッケージの例

次に、TimeZone パッケージのスキプトの例を示します。

```
[Version]
Number=TimeZone_Test
Description=Test Script
OS=TDC
Category=ThreadX Configuration
[Script]
NTP Server=10.100.5.5
Query Interval = 3600
Port=9999
Enable Daylight Savings=1
Time Zone=gmt_minus_1000_hawaii
```

### ThreadX Video パッケージでサポートされるパラメータ

Video パッケージを使用すると、ThreadX デバイスでビデオイメージ品質の設定を変更できます。Video パッケージを設定するには、「既存のサンプル ThreadX パッケージのカスタマイズ」(P.4-13) および「新しい ThreadX パッケージの作成」(P.4-14) を参照してください。次の表では、Video パッケージのスキプトでサポートされるパラメータについて説明します。イメージ品質を低くすると、ネットワーク帯域幅が限られている場合に、フレーム レートを高くできます。

表 4-6 Video Package パラメータの定義

| パラメータ          | 定義                                                |
|----------------|---------------------------------------------------|
| Cursur_enable= | ローカル カーソルを有効にする。使用しない場合は 0 を入力し、使用する場合は 1 を入力します。 |
| Min_Img_Qty=50 | 最低のイメージ品質。範囲：30 ~ 100。                            |
| Max_Img_Qty=80 | 最高のイメージ品質。範囲：30 ~ 100。                            |

### Video パッケージの例

次に、Video パッケージのスキプトの例を示します。

```
[Version]
Number=Video_Test
Description=Test Script
OS=TDC
Category=ThreadX Configuration
[Script]
Cursur_enable=1
Min_Img_Qty=50
Max_Img_Qty=80
```

## Cisco VXC 2112/2212 ICA クライアントのアップグレード手順

次の項では、ICA ファームウェア イメージおよびクライアント コンフィギュレーションを更新する方法について説明します。

- 「ICA ファームウェア イメージの更新」 (P.4-22)
- 「ICA クライアント コンフィギュレーションの更新 (WTOS パッケージのビルドと登録)」 (P.4-23)

### ICA ファームウェア イメージの更新

Cisco VXC ICA クライアントでファームウェア イメージを更新するには、次の手順に従います。

#### 手順

- 
- ステップ 1** 次の URL にあるシスコのソフトウェア ダウンロード ページから OS イメージをダウンロードします。  
<http://www.cisco.com/cisco/software/navigator.html?mdfid=283759601&i=rm>
- ステップ 2** Cisco VXC Manager がインストールされているサーバ上で、Zip 圧縮されたファームウェア ファイルをローカル フォルダに展開します。
- ステップ 3** パッケージを登録します (「スクリプト ファイル (.RSP) からのパッケージの登録」 (P.3-35) を参照)。パッケージの登録プロセスで RSP ファイルを求められた場合は、Zip を展開したパッケージに含まれる RSP ファイルを参照して選択します。
- ステップ 4** DDC プリファレンスを設定します (「デフォルト デバイス コンフィギュレーションのプリファレンスの設定」 (P.7-67))。
- ステップ 5** 次の追加 WTOS プリファレンスを設定します。
- [Preferences] ダイアログボックスのツリー ペインで、[WTOS] をクリックします。
  - [WTOS Preferences] ダイアログ ボックスで、[Enable Return FTP/INI At Checkin] がオンになっていることを確認します。
  - [WTOS Root Path] フィールドに [WNOS] が含まれていることを確認します。
  - [OK] をクリックします。
- ステップ 6** Cisco VXC 2112/2212 をアップグレードするには、デフォルト デバイス コンフィギュレーションを使用します (「デフォルト デバイス コンフィギュレーションの管理」 (P.7-67) を参照)。



(注) ICA クライアントでは、アップグレードに対してデフォルト デバイス コンフィギュレーション手法だけがサポートされます。ドラッグ アンド ドロップはサポートされていません。

## ICA クライアント コンフィギュレーションの更新 (WTOS パッケージのビルドと登録)

WTOS パッケージを使用して ICA クライアント コンフィギュレーションを更新するには、この手順を使用します。

### 手順

- ステップ 1** クライアント設定を含めるフォルダを作成します (例: **ICAConfigs**)。
- ステップ 2** ICAConfigs フォルダに、名前が ICA1.rsp で次の内容が含まれる RSP ファイルを作成します。
- ```
[Version]
Number=ICA1
Description=Package for ICA client upgrade
OS=BL
Category=Images
Imagetype=Merlin
Mediasize=128
[Script]
```
- ここで、「Number=」セグメントは、RSP ファイル名と正確に一致する値にする必要があります。
- ステップ 3** また、ICAConfigs フォルダに、RSP ファイル名と同じ名前を使用してサブフォルダを作成します (例: **ICA1**)。
- ステップ 4** ICA1 フォルダ内に、**WNOS** という名前のサブフォルダを作成します。
- ステップ 5** WNOS フォルダに、必要なコンフィギュレーションが含まれる wnos.ini という名前のファイルを作成します。(サンプルの .ini ファイルを含む詳細については、『*Cisco Virtual Experience Client 2112/2212 WTOS INI Files Reference Guide*』を参照してください)。
- 例:
- RSP イメージの場所と名前:
C:\VXC-M\ICAConfigs\ICA1.rsp
 - WNOS ディレクトリの場所と名前:
C:\VXC-M\ICAConfigs\ICA1\WNOS
 - WNOS ディレクトリ内の wnos.ini ファイルの場所と名前:
C:\VXC-M\ICAConfigs\ICA1\WNOS\wnos.ini
- ステップ 6** パッケージを登録します (「スクリプト ファイル (.RSP) からのパッケージの登録」(P.3-35) を参照)。
- ステップ 7** DDC プリファレンスが適切に設定されていることを確認します (「デフォルト デバイス コンフィギュレーションのプリファレンスの設定」(P.7-67))。

- ステップ 8** 次の追加 WTOS プリファレンスが適切に設定されていることを確認します。
- [Preferences] ダイアログボックスのツリー ペインで、[WTOS] をクリックします。
 - [WTOS Preferences] ダイアログ ボックスで、[Enable Return FTP/INI At Checkin] がオンになっていることを確認します。
 - [WTOS Root Path] フィールドに [WNOS] が含まれていることを確認します。
 - [OK] をクリックします。
- ステップ 9** Cisco VXC 2112/2212 をアップグレードするには、デフォルト デバイス コンフィギュレーションを使用します（「[デフォルト デバイス コンフィギュレーションの管理](#)」(P.7-67) を参照）。



(注) Default Device Configuration Wizard の [Primary Definition] タブで、[Qualifying OS Image] フィールドで登録したパッケージの名前を選択し、ICA クライアント コンフィギュレーションを更新します。

リモート リポジトリを使用したクライアントのアップグレード

Cisco VXC Manager は、リモート リポジトリ形式の組み込みスケラビリティ機能をサポートしています。帯域幅を確保し、アップグレードを効率的に実行するには、デバイスと物理的に近い場所にリモート リポジトリを設定できます。リモート リポジトリのコンフィギュレーションには、リモート リポジトリの設定、Cisco VXC Manager でのリポジトリの登録、パッケージのリモート リポジトリとの同期、どのサブセットがどのリポジトリに関連付けられるかの指定が含まれます。

現在のリリースで、デバイスをリモート リポジトリに割り当てる唯一の方法は、デバイスのサブセットによる方法です。

詳細については、「[Cisco VXC Manager リポジトリについて](#)」(P.7-87)、「[リモート リポジトリ同期のスケジュール設定](#)」(P.5-38)、「[Cisco VXC Manager へのサブネットの手動での追加](#)」(P.7-92) を参照してください。

Cisco VXC Manager パッケージ構造について

Cisco VXC Manager パッケージ構造は、2 つのコンポーネントで構成されています。

- パッケージ スクリプト (RSP) ファイル (ImgXL24.rsp)
- 必要なアプリケーションまたはイメージ ファイルが格納されているパッケージ フォルダ (ImgXL24)

パッケージが正しく機能するには、これらの 2 つのコンポーネントが次の構造上の規則に従っている必要があります。

- パッケージ スクリプト ファイルには .rsp 拡張子が付いている必要があります。RSP ファイルは、Notepad で作成および編集できます。
- パッケージ フォルダには、パッケージ スクリプト ファイルと同じ名前を付ける必要があります。

- パッケージ スクリプト ファイルの [Version] セクションの Number= パラメータは、デバイスから Client Manager に報告された値と一致している必要があります。これは、デフォルト デバイス コンフィギュレーション機能を使用する場合に、特に重要です。
- パッケージ スクリプト ファイルによって参照されるすべてのファイルが、パッケージ フォルダまたはそのサブフォルダに格納されている必要があります。
- コマンド引数はすべて二重引用符で囲む必要があります、またスペースだけで区切ります。
- レジストリ パスはすべてバックスラッシュ (「¥」) で区切り、引用符で囲みます。
- ルート レジストリ キーには省略形を使用しないでください (たとえば、HKLM ではなく HKEY_LOCAL_MACHINE を使用します)。
- ファイル名はすべてバックスラッシュ (「¥」) で区切り、引用符で囲みます。
- パス名とレジストリ ブランチのいずれもバックスラッシュで終わることはできません。
- 通常、コマンドが失敗すると、スクリプトは中止されます。コマンドが失敗した場合にスクリプトが中止されないようにするには、コマンドにアスタリスク (*) を付加します。(すべてのコマンドでこれがサポートされるわけではないことに注意してください)。
- <REGROOT> (<regroot>¥sourcefile.txt など) は、登録されたパッケージのルート ディレクトリを指します (c:¥inetpub¥ftproot¥rapport¥<packagename> など)。



ヒント <regroot> は、(デバイスではなく) Cisco VXC Manager サーバの特定の場所でパッケージ アプリケーション ファイルを検索するよう Cisco VXC Manager サービスに指示するポインタです。<regroot> は、Cisco VXC Manager マスター リポジトリを見つけて、必要なパッケージ ファイルが格納されているフォルダを識別します。

スクリプト ファイル構造の概要

Cisco VXC Manager スクリプト (RSP) ファイルは、Cisco VXC Manager パッケージを構成する 2 つのコンポーネントのうちの 1 つです。

- パッケージ スクリプト (RSP) ファイル (ImgXL24.rsp)
- 必要なアプリケーションまたはイメージ ファイルが格納されているパッケージ フォルダ (ImgXL24)

パッケージ スクリプト (RSP) ファイルは特定の構造に準拠している必要があります、次の 2 つのセクションを含んでいる必要があります。

- Version
- Script

Version

[Version] セクションには、パッケージの登録および配布のために必要な情報が含まれています。[Version] セクションの各エレメントについて説明します。

[Version] : 必要なセクション ヘッダー

Number= : パッケージ スクリプト ファイル名と同じでなければなりません

Description= : パッケージで実行可能な内容の簡単な説明

OS= : パッケージの対象となるオペレーティング システム

USE_REMOTE= : YES または NO。リモート リポジトリ (存在する場合) を使用するかどうかを指定します。デフォルトは YES です。(任意)

DEPLOYEDSW=: YES または NO。Cisco VXC Manager によって配置されたデバイス用パッケージテーブルにパッケージを追加するかどうかを定義します。デフォルトは YES です。(任意)

Category=: パッケージが入れられる、Administrator Console 内の Cisco VXC Manager Package Manager カテゴリ。カテゴリが存在しない場合は、作成されることに注意してください。

イメージ カテゴリの特殊タグ

[Version]: 必要なセクション ヘッダー

ImageSize=: イメージのサイズ (MB 単位)

BootFloppy=: ブート フロッピーの名前。デフォルトは RAPPORT です

IMAGE=: 使用するイメージ ファイルの名前。デフォルトでは、Cisco VXC Manager はパッケージフォルダ内で最初に見つかったファイルを使用 (CRC.text を除く)

Command=: 実行するイメージ操作

Script

[Script] セクションには、スクリプトの配布時に実行されるコマンドが含まれています。各コマンドは、[Script] セクション内に表示される順に実行されます。

推奨されるスクリプト テンプレート

```
[Version]
Number=Script name (matching the RSP_ file name and Package folder name)
Description=Detailed description with version number and valid images
OS=XX
Category=Other Packages
[Script]
Written by: Your Name and Company
; .....
; >Check the Operating System
; >Check the Image Version
; .....
CO "NT"
CI "XXXX"
; .....
; >Check Free Space
; >Check Minimum Memory, if necessary
; >Check User, if necessary
; .....
CF "X" "XXX"
CR "XXXX"
CU "XXXXXXXXX"
; .....
; > Query User then lock Workstation
; .....
QU
LU*
; .....
; >Add Commands Here
; .....
;SF "<regroot>%files%x.xxx" "c:%yyyy%zzzz"
;EX "c:%yyyy%zzzz"
;DF "c:%yyyy%zzzz"
;MR "<regroot>%xxxx.reg"
;SP "c:%windows%system.ini" "DISPLAY" "screen-size" "640"
; .....
; >End Lockout
; .....
```

```

EL*
; .....
; >Reboot, if necessary
; .....
RB
-----

```

バージョン

[Version] セクションには、パッケージの登録および配布のために必要な情報が含まれています。

BootFloppy=

イメージングプロセス中に Cisco VXC Manager が使用するブート フロッピーを指定します。

- Rapportitf.0 (イメージング用の Cisco VXC Manager Imaging エージェント)

Category=

パッケージのカテゴリを定義します。Category= に別のカテゴリ名を入力してから、Cisco VXC Manager を使用してパッケージを登録すると、Package Manager の下にその名前前のフォルダが作成されます。



ヒント

パッケージは、Category= を変更して、パッケージを再登録することで、あるカテゴリから別のカテゴリに移動できます。

Command=

実行するイメージ操作。

例：Command=%ImageWrite%

可能な値：

- %ImageWrite% (この値は DiskOnChip に書き込まれます)
- %ImageRead% (この値は DiskOnChip から読み取られます)

DeployedSW=

これは、Cisco VXC Manager によって配置されたデバイス用パッケージ テーブルにパッケージを追加するかどうかを定義します。

DEPLOYEDSW=Yes または No : 指定しないか、誤って指定した場合、デフォルトは Yes です。このオプションは、主に DDC とともに使用されます。DDC で [Enforce Sequence] がイネーブルになっている場合は、デバイスに送信されるパッケージによって、DDC は、デバイスの再イメージ化を行います (そのため、パッケージはすべて削除されます)。DeployedSW=No を使用すると、ユーザは、配布を記録せずにデバイスにパッケージを送信できるため、DDC 操作はトリガーされません。

Description=

スクリプト開発者が、パッケージに関する簡単な説明を追加できます。説明はコメント行で、スクリプトの実行時に Cisco VXC Manager によって解析されません。

Image=

イメージの読み取りまたは書き込みの際に使用するファイル名を定義します。

Image=filename : デフォルトは、CRC.txt を除く、<regroot> で検出された最初のファイルです。

ImageSize=

クライアントに送信されるイメージのサイズを Cisco VXC Manager に示します。

値 : 8、16、24、32、48、64、72、80、96、128、144、192、256、512、1024

Number=

パッケージの名前を Cisco VXC Manager に示します。パッケージ スクリプト (RSP) ファイルの名前は Number= パラメータと一致する必要があります。たとえば、パッケージ スクリプト名が ImgXL24.rsp の場合は、ImgXL24.rsp の [Version] セクションに Number=ImgXL24 が必要です。

例 :

```
[Version]
Number=[Number reported by device in Device Manager under Image]
Description=Image to Write to Device
OS=NT
Category=Images
USE_PXE=YES
USE_REMOTE=NO
DEPLOYEDSW=YES
IMAGE=[xyz24x1.img]
IMAGESIZE=24
```

OS=

デバイスで実行されているオペレーティング システムを定義します。

値 :

- BL WTOS
- SLX SUSE Linux
- TDC ThreadX

Use_Remote=

パッケージが、サブネットに割り当てられたリモート リポジトリを使用するか、または常にマスターを使用するかどうかを定義します。

Use_Remote=Yes または No : 指定しないか、誤って指定した場合、デフォルトは Yes です。